

好奇心漫遊記：世の中面白い事だらけ

## 番外編-1：欲望の研究 矢澤の欲望実験顛末期

矢澤 洋爾



矢澤さんは人体実験が大好きです。人体実験といっても、ほとんどが自分の体を材料にしたものだからナチスのような残酷なものではありません。

忠臣蔵を歩いてみよう、というのも一つの人体実験でした。実際にあの距離を歩いてみて自分の体に何が起こるか知りたかったのです。

関ヶ原の合戦で小早川秀秋が右につこうか左につこうか思案をめぐらした松尾山から実際何が見えるのか見てみたい、そして決意して山を駆け下りたとき実際に何が起こるのかやってみよう、というのも人体実験でした。

秀吉と明智光秀が戦った山崎において天王山がどういう意味をもっているのか実際に体験したい、というのも人体実験でした。

本当は重たい鎧兜をまとうなど、当時の服装で実験すべきなのでしょうが、矢澤さんはがんらいが怠け者。できれば楽な方法で実感したいので、鎧兜のない状態での経験を外挿して当時の大変さを想像しようとするのです。

先日の贅沢実験も同じです。できれば一級の温泉地で、気のおけない友人と飲んで騒ぎ、騒いでは温泉につかり、将棋をさして、歴史を論じて、また飲んで、そんな日を一週間くらい過ごしてみたいのですが、鎧兜で山登りをするのに似て大変なので、より簡便な家庭で温泉気分をシミュレーションしようとしたのでした。

思い立って一週間、用意する料理を思い浮かべ、段取りを頭に浮かべ、起こるだろう事をあれこれ想像し、楽しみにしたその企てはしかし、あまりにあっけなく終わってしまいました。

綺麗に片付けた部屋で料理を飾り付け、ビデオのスイッチを入れてビールの栓を抜き、そして、その後 20 分程で睡魔に襲われ眠ってしまったのでした。マッサージチェアを思いきりリクライニングして数時間眠った後、寝覚めに襲ったのは二日酔いに似た頭痛でした。あれだけ楽しみにしていた実験のあまりにあっけない幕切れ。でもそれは矢澤さんに欲望の何たるかを十分に教えてくれました。

『欲望は満たされる事に意味があるのではなく、満たそうとする事に意味がある。』という事です。出来ればいつまでも満たされなければそれが一番いい。懐石料理などはその例ではないかと思われました。料理を楽しみたい、という欲望の一番の敵は満腹感です。いつまでも満腹にならない料理があればそれが一番だ。いつまでも満腹にならない料理、それが懐石料理なのではないか、と思ったものです。

喜びを得たい、という欲望は欲望がえられそうでいつまでも得られない状態において一番人間を幸福にするのではないか？「悲しみよこんにちは」（フランソワーズ・サガン原作）という映画における登場人物達の行動はそれを示している様に思います。昼間からシャンパンを飲んで毎日海水浴を楽しむという恵まれた生活。そんな時人は幸福を実現するため不幸と言う味付けを求める。不幸になるため失恋を求め、失恋するために恋をするのだと思われます。

「悲しみよこんにちは」これこそ幸福に飽きた人が喜びを持って語る言葉なのでしょう。

(2004.7.6)



北京は天壇公園で石畳に水で書をしたためる人。  
水で書かれた文字は書くそばから消えていく。